

# 経営と健康

## 生誕千二百五十年「弘法大師の生涯」

### 第一回

講談師 一龍斎貞花



特定の宗派とお考えになる方もありましようが、弘法大師空海上人は、宗家だけでなく、教育者、土木工學博士、医学、食べ物にも詳しく、四国八十八カ所など宗派に関係なくお参りされる方あり、高野山には宗派に関係なく武田信玄、織田信長、徳川家康はじめ多くの大名のお墓が建てられています。

今年、弘法大師ご生誕千二百五十年の記念の年です。

宝龜5年(774)6月15日、讃岐国屏風が浦(香川県善通寺)で、地方の貴族佐伯直田公の子として生れ幼名を真魚。物心つくや神や仏に手を合せます。

叔父の阿刀の大足の勧めで国学という学校に学び、更に日本に唯一つしか

無い大学に進んだ真魚は、東大寺の大仏様に手を合せた時、大きな感銘を受け出世を約束されている大学を中退し、名僧勤操大徳の弟子となり空海という法名を頂き修行していたが、

「仏教の世界はなんと奥の深いものだろう。長安の都へ行けば今迄知られなかつた仏教の世界を知ることが出来るに違いない」

唐へ行きたいと朝廷に願ひ出るものすぐに許可がおりず、この間各地を巡って修行。

やっと10年後許可がおり遣唐使にまじって肥前国田野浦の港を船出したものの、二日目の夜には大嵐に会い、一隻は行方不明、一隻は海に沈み多くの人の命が失われます。当時の航海は命がけ。なんとか助かつたものの帆はちぎれ、かじは折れ波にもて遊ばれ、やっと着いた

のがずつと南の福州(福建省)。役人はボロボロの身なりを見て海賊だったら大変と上陸を許してくれない。同行していた隸書の第一人者橘逸勢が再三上陸願ひ書を出すんですが許されない。ようやく空海の書いた願ひ書によって上陸が許され憧れの長安(西安)の都へ着いたのが12月23日、日本を船出して命懸けで、片道だけで5カ月半もかかりました。

夢にまで見た長安、中国古代文化の爛熟期にあり首都長安は文化の中心地。やがて唐の皇帝から国師と仰がれている惠果阿闍梨に弟子入りしようと青龍寺を訪ねますと、

「わしはそなたが来ることを待つておつた。わしはもう幾らも生きられない。なのにわしが受け継いだ仏法を伝える者に逢えなかつたが、今その器が現

れた。わしはそなたに総てを伝授しよう。どうかこの尊い教えを末永く人々に伝えてもらいたい」

自分の来ることを待つておられたとは、空海は自分の耳を疑い勿体無さに涙あふれたのでございます。

惠果阿闍梨はご自分の命尽きることを承知され、密教の総てをわずか3カ月で空海にお授けになられ、総てを会得するや金剛界胎藏界秘密の灌頂という儀式を終えた空海は、真言密教のご本尊である大日如来と深く縁を結ばれ

「そなたは不思議じゃ、大日如来様と深い因縁に結ばれておる。これからそなたは遍照金剛と呼ばれてよいぞ」

「有難うございます」

この日から空海は、真言密教の第八世となられ、密教の正統はインドから

中国をへて日本人空海に伝えられ、同時に膨大な経典、法具、仏画、仏像まで授けられ、空海は当初20年の留学を覚悟、留学生は20年居なければいけない。それがわずか満2年で奥儀を會得、時に空海32歳。

帝から招待された時乾き物があつたので、問うと「煎餅」。作り方を教わり帰国後山城の國小倉和三郎に作り方を教え、当時砂糖が無かつたので果汁を使い亀甲型に焼上げ嵯峨天皇に献上、諸国を旅する時の携帯食と考えられたのかも。またうどんの作り方も教わり、今のような細長い麺ではなく団子状だったと思われ、それが郷里香川県がうどん県になつていったのです。

空海に総てをお授けになるや、恵果阿闍梨は61歳の生涯を閉じられます。かくして大同元年（806）10月帰国。出家得度した和泉の槇尾寺で3年間、中国で学んだことをしっかり復習し密教を完全に身につけます。

空海の教えは即身成仏

間もなく朝廷より「密教の教えを広めて宜しい」という許可が許され、空海の教えは即身成仏。

「人は誰でも生きたままに仏になれる」という全く新しいもの。

「生きたままに仏だと、聞いたことがないわ」

「即身成仏した人がこれ迄におるか」

各宗派の僧侶ばかりか、嵯峨天皇からもお尋ねがあり、

「然らば、それをお見せしましょう」と、南の方に向つて結跏趺坐し、金剛界大日如来の智拳印を結び御真言を唱えるや、たちまちの内に蓮華に座し頭には宝冠を頂き金色の大日如来のお姿になるといふ大奇跡が起つたと申しまゝす。

弘法大師には多くの奇跡が語り継がれています。

こうして高尾の神護寺に入り活動が始まります。空海の教えは「この世で極楽を見せたい」。つまり世の中の平和です。国家を鎮め守る修法を行い嵯峨天皇は空海上人に厚く帰依され、書道も空海に師事されました。

大同4年、天台宗を創立した先輩の最澄上人が、

「どうか密教の経典を貸して頂きたい」との願ひに、快くお貸しになり、しまいには理趣経まで指導してほしいと

依頼されるや、

「これは真言密教の修行をした者でなければお見せ出来ません」と、お断りになりました。このことを書かれたものが神護寺に残っています。

弘仁5年、春とは名のみの寒い日、嵯峨天皇から沢山の綿を贈られ、

「山の中のお寺は、まだまだ寒いことでしょうね」といふ、暖かいお心のこもつたお手紙も添えられていました。

嵯峨天皇は50人の子どもがいて財政が苦しく、そこで8人を親王の位をはずし源の姓を与え、ここで源氏が生まれ、その後清和天皇の子が清和源氏となり頼朝につながつていき、平家は桓武天皇の後胤で、清盛や将門につながつていきます。

嵯峨天皇は嵯峨御流という生け花の第一世で日本華道の祖ともいわれます。

「修行の道場を造らなければ、そしてその道場は、この空海が即身成仏する場所である。帝にお願いしよう。

高野山にお寺を建て国の繁栄と、人々の幸せをお祈りし私はじめ僧侶たちの修行の場にしたと思います。何卒あの地を賜りたいと、厚かましいお願いを申し上げます」

この願ひ書を差し出すや、

「高野山を、空海に給う」といふ、帝のお許しが届きました。

1207年前の弘仁7年、標高900メートル、蓮の花の型に例えられる山の上に次々とお寺が建てられ、金剛峯寺と名付けました。

若き日、山野を駆け巡っていた修行中、山の上の平原を見出したとも、また唐の国で恵果阿闍梨から頂いた仏具の独鉈を、「私の修行道場の地をお示し下さい」と投げるや、ブーンと海を越えて飛んで行き、帰国後独鉈を探すと高野山であつたとの言い伝えも。金属が飛んで行くわけがなく、神格化として語られているでしょう。

弘仁12年、故郷讃岐の国で灌漑のための用水池万濃池の大工事が行われていたが難工事で一向に完成しない。

そこで嵯峨天皇は、この工事を空海に仰せつけられました。

「何故土木工事を、素人の私にお申し付けになられたのであろう」

現代にも通じる高さ24・24メートルの堤防を築くお話しは次回連続に申し上げます。